

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和2年度  
宮城県意見交換会(第3回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2021年2月2日

# ● 目次

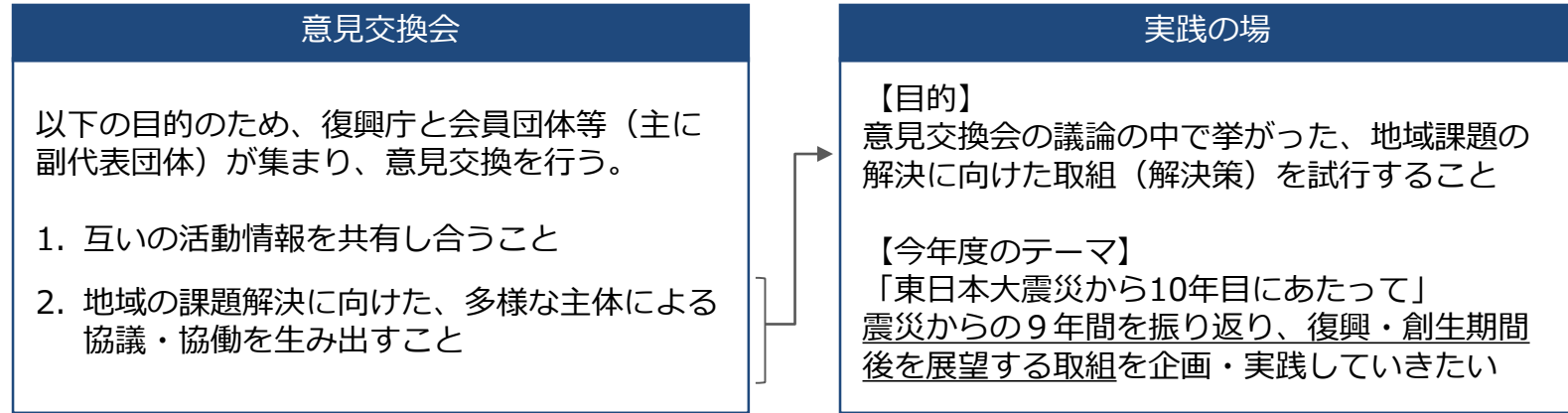
---

1. 意見交換会の概要
2. 実践の場の概要
3. 実践の場の開催結果
  - (1) 傍聴者の特徴
  - (2) 各分科会でのアウトプット
  - (3) 満足度
  - (4) 目標達成度
  - (5) 考えたこと・学んだこと
4. 次年度の協議会・意見交換会について
5. 意見交換

# ● 1. 意見交換会の概要

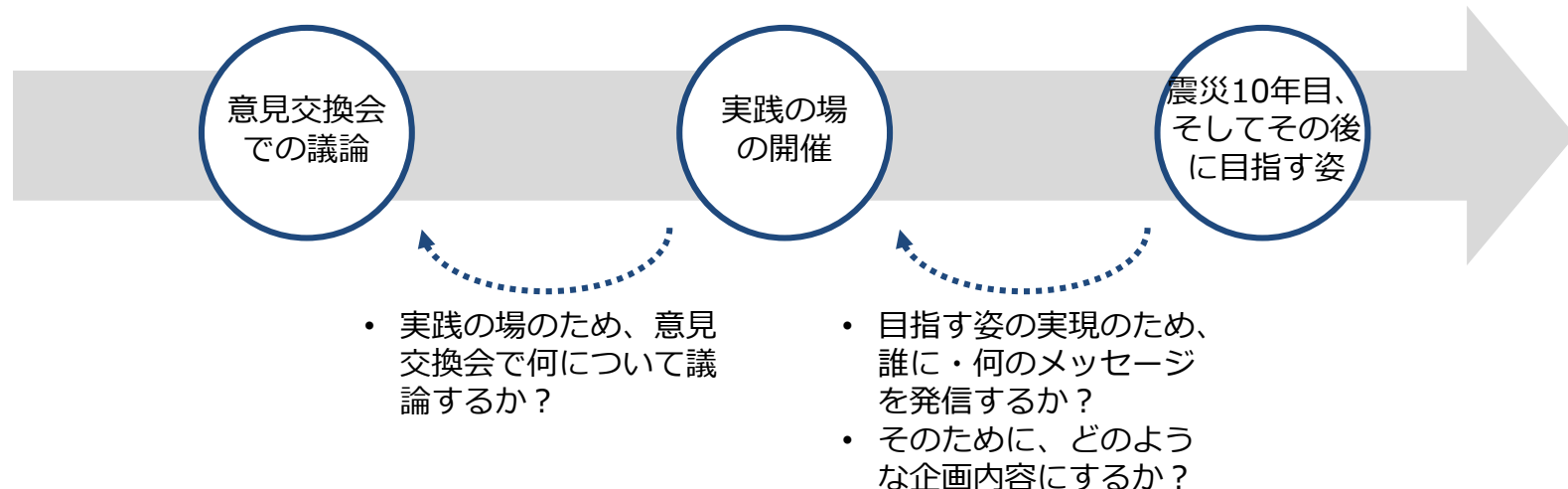
今年度は東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や、そのための意見交換会での議論を組み立てていきます。

## ■ 意見交換会、実践の場とは



## ■ 今年度の方向性

東日本大震災から10年目、そしてその後に目指す姿を念頭に置き、実践の場の企画や意見交換会での議論を組み立てる



## ● 2. 実践の場の概要

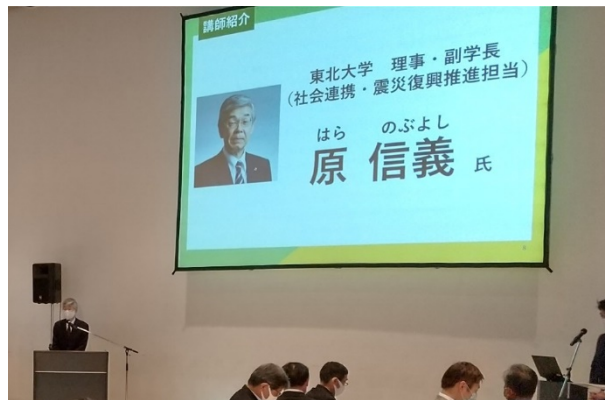
これまでの意見交換会の内容を踏まえて、下記の内容で実践の場を開催しました。

開催日時	2020年11月18日（水）14:00～17:25	開催場所	仙台市（せんだいメディアテーク）
タイトル	みやぎ復興官民連携フォーラム ～東日本大震災10年目の今、復興をきっかけに生まれた『連携』の姿とその将来像を考える～		
企画目的	<p>当該イベントでは、東日本大震災から今までに実施した官民連携による先駆的な取組事例に焦点を当て、連携先のNPOや民間企業などともに、振り返り・総括を行うとともに、現在進行形の復興活動や今後の災害対応等に資するノウハウ・将来像を検討することにより、今後なお一層の連携強化に寄与することが主目的である。</p> <p>また、議論の結果を全国にも発信することにより、官民連携の多様な取組を通じて蓄積したノウハウ（特に宮城県内で独自に発展したもの）が他地域での地方創生の取組に応用されること、および宮城県が「連携」を通じて復興・創生に取り組んでいる地域として全国から認知されることも第二の目的とする。</p>		
実施内容	<p><b>14:00～ 開会挨拶・趣旨説明</b></p> <p><b>14:05～ 基調講演</b> 「東北大学復興アクションの軌跡と未来～宮城県内における連携活動を中心として～」</p> <p><b>14:55～ 分科会</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 被災者支援 「広域支援団体連携推進について」</li><li>● 産業復興支援 「パートナーシップによる産業の創造的復興に向けて」</li><li>● まちづくり 「持続可能な防災まちづくり」</li></ul> <p><b>16:50～ 総括（3分科会の結果発表）</b></p> <p><b>17:20～ 閉会挨拶</b></p>		
規模	【登壇者・参加者】31人 【傍聴者】約130人（現地43人＋オンライン約90人*）		

\*オンライン傍聴者は匿名での参加や途中参加/退出もあり、厳密な人数の特定が難しいため、概数を掲載しています（申込は139人）



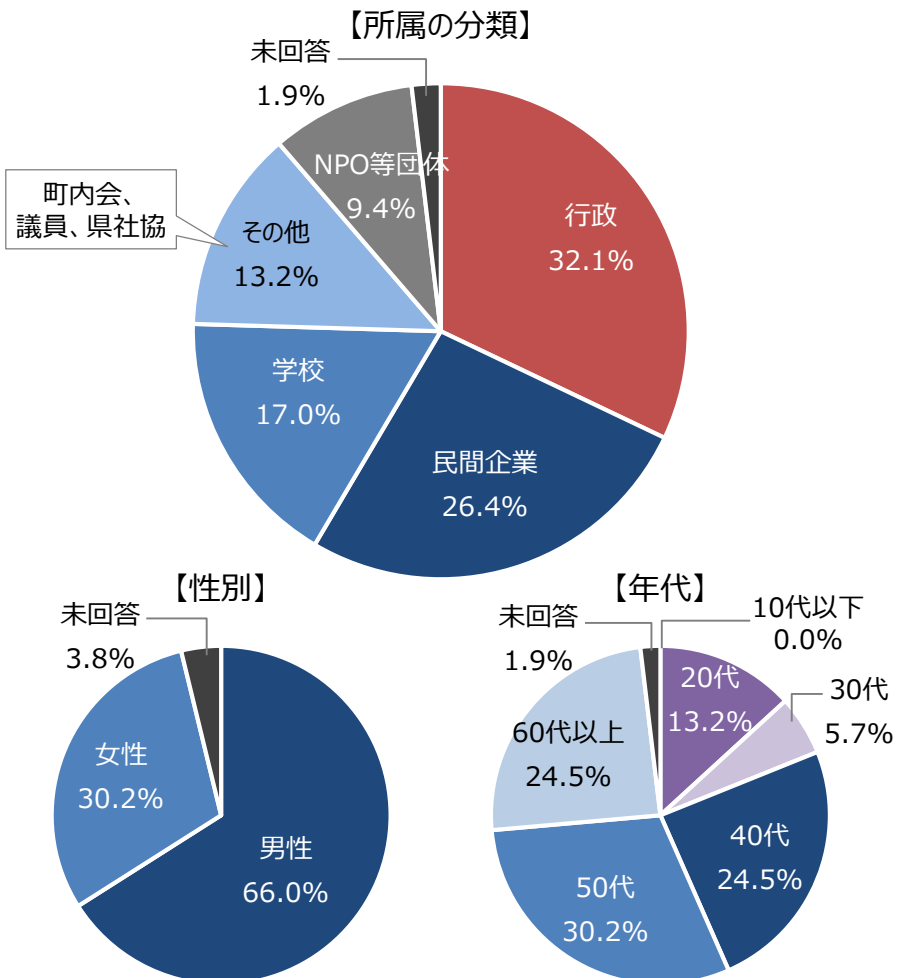
# ● (ご参考) 当日の様子



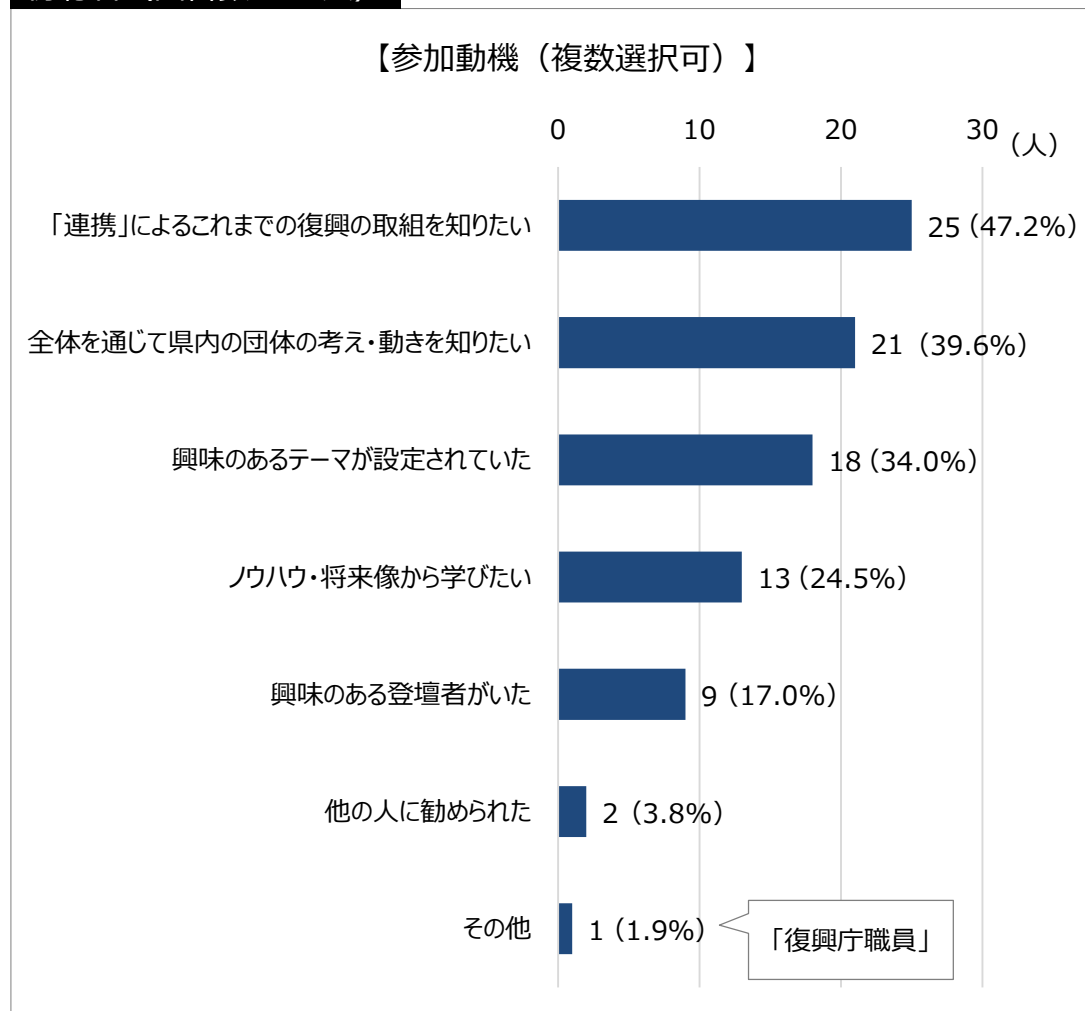
### ● 3. 実践の場の開催結果 — (1) 傍聴者の特徴

アンケート回答者53人の内訳を見ると、産官学さまざまな所属の方が傍聴して下さったことが分かります。このうち、およそ半数は「連携によるこれまでの復興の取組を知りたい」という参加動機でした。

傍聴者（回答数：53人）



傍聴者（回答数：53人）





### ● 3. 実践の場の開催結果 — (2) 各分科会でのアウトプット [被災者支援]

被災者支援分野では以下のような発言・議論がありました。多様な関係者による連携や議論の継続、目に見えるアウトプットの発信がノウハウとして考えられます。

#### 当日の発言・議論の要点

- 災害時に広域支援団体の連携を機能させるために必要なこと
  - ▶ **平時から「顔の見える」関係をつくり**、定期的に情報交換・議論
- 令和元年度台風19号発災対応での反省
  - ▶ 東日本大震災支援のための団体が他の災害に対応しにくかった
  - ▶ みこし連全体として指針が定まっていなかった
  - ▶ 組織間で合意形成をできていなかった
- 県災害VC協力体制の再構築に向けた議論
  - ▶ 初動の情報収集・発信が重要（外部の支援も受けられなくなる）
  - ▶ 多様な視点を入れるため、特定の団体に役割が偏らないようにするため、分担すべき
- 今後の大規模災害に向けた課題
  - ▶ **連携体制の構築、役割分担の整理、平時の関係性の再考**  
→ **共同で意思決定できる組織をつくる**

#### ノウハウ

- 震災時における「情報収集・共有」の必要性から集まった多様な立場の関係者が、地域課題解決のため連携を継続
- 共通の目的を設定した上での、定期的な議論
- 今までの取組や反省点を報告書にまとめて発信（目に見えるアウトプット）

### ● 3. 実践の場の開催結果 — (2) 各分科会でのアウトプット [産業復興支援]

産業復興支援分野では以下のような発言・議論がありました。地域外や若い世代の力を活かすことや、若年層の起業家や牽引役に対して支援することがノウハウとして考えられます。

#### 当日の発言・議論の要点

	県内	県外から
主体	三陸ホテル観洋 阿部様	フィッシャーマンジャパン 松本様
支援者	(株)MAKOTO 竹井様	NEC 山本様

- 産業復興に重要な役割を果たした「連携」
  - **地域外のカ、若い世代のカを活かした連携**
- 良い「連携」をつくるために必要な要素・工夫
  - **志の共有**
  - **良い人材を結びつけるコーディネーション**
  - **使命感の醸成による連携の目標達成**
  - 小さな成功の積み重ねによる継続（継続のための粘り強さ）
  - 外の感覚を持ちながら、中の人とつながる
  - ポジティブに考え、周りの協力を得ながらアイデアを形にする

#### ノウハウ

- Uターンや出向・インターン受け入れによる、地域外のカや若い世代のカを活かした、地域経済活性化のための契機創出
- 若年層の起業や、セクター横断での連携創出を牽引する役割に対し、支援を継続的に実施



### ● 3. 実践の場の開催結果 — (2) 各分科会でのアウトプット [まちづくり]

まちづくり分野では以下のような発言・議論がありました。意見を引き出し・まとめる工夫、楽しいことを盛り込む工夫、情報格差の排除などの「丁寧なコミュニケーション」がノウハウだと考えられます。

#### 当日の発言・議論の要点

- 安全な環境下においても防災まちづくりは必要
  - 防災は「困りごと」のひとつ
  - 新しい地域だからこそ、地域・地形を知らない懸念
  - 「被災したからこそその不安」を解消
- 持続可能なまちづくりのために必要な「連携」の工夫  
= **住民以外も巻き込んだ「丁寧なコミュニケーション」**

#### 【気仙沼市鹿折】クチだけでないモデル

→立場を超えた丁寧な意見集約・「一緒にやってみる」

#### 【石巻市のぞみ野】情報・負担格差是正モデル

→情報格差の防止、複数関連団体を巻き込んでの意見出し

#### 【名取市関上】ステージ適応・拡大型モデル

→全戸配布での情報共有、施設+予算+人を徐々に拡大

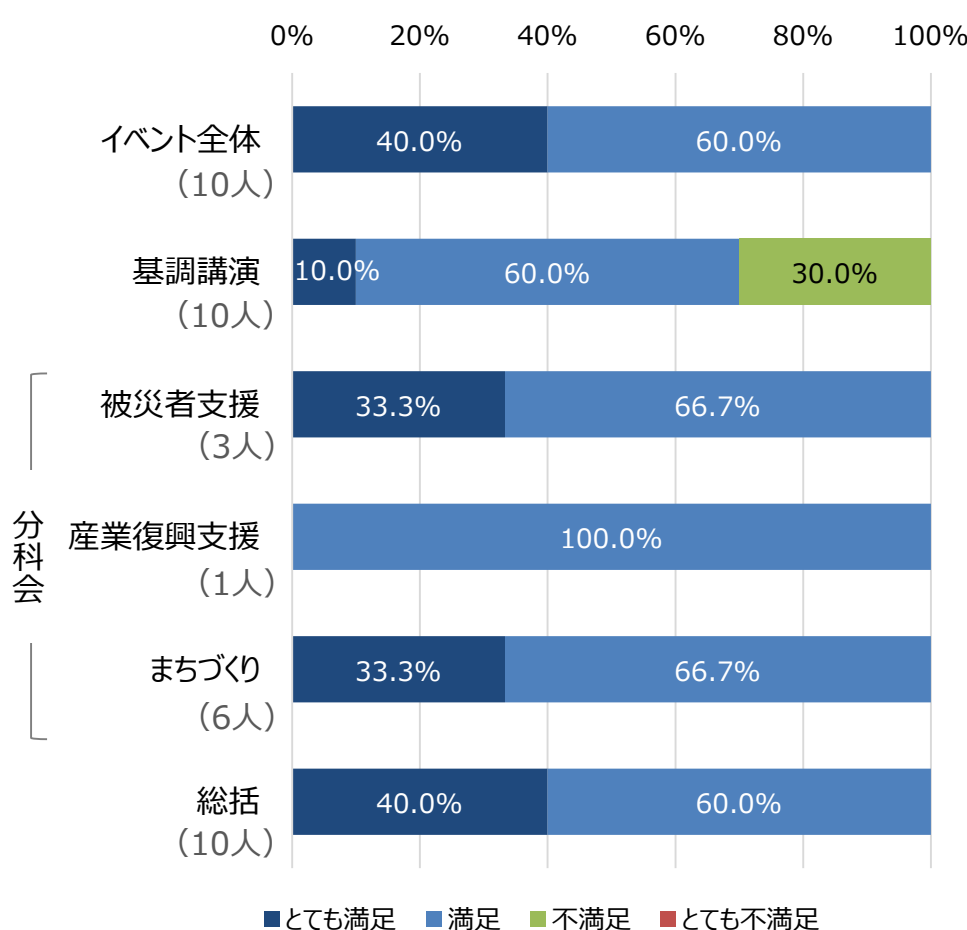
#### ノウハウ

- 共通の目的・課題を設定した上での定期的な議論
- 組織や役職・立場にとらわれない、一市民としての意見を引き出す議論進行
- 組織のみではなく、住民末端までの意見を拾い上げる丁寧な意見集約
- 役員や固定メンバーだけが頑張らない、分担体制
- やらなければならないことだけではなく楽しいことを盛り込む工夫
- 住民と行政を繋ぐ中間団体により、悩み・専門性を翻訳し行動につなげる仕組みづくり
- 全員に伝える工夫により、情報格差を排除
- まちづくりに参画する意識づけ
- 活動資金の確保（地域活性化支援制度、県や民間の補助金）や、金銭負担のルール化を実施
- 他の地区の取組も知り、良いものは取り入れる

### ● 3. 実践の場の開催結果 — (3) 満足度 [参加者]

イベント全体に対する参加者の満足度は「とても満足」が40%、「満足」が60%でした。分科会は回答数が少なくばらつきがありますが、全員に満足いただくことができました。

参加者 (回答数 : 10人)



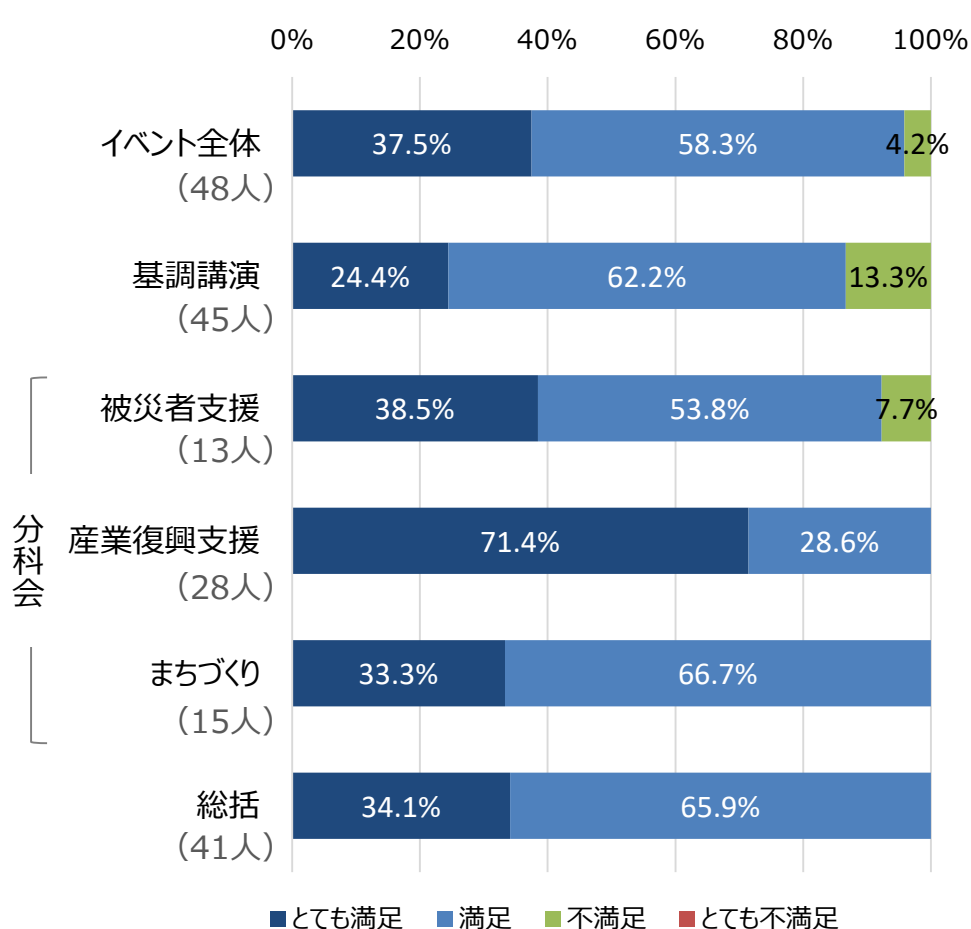
【満足度の理由】(要約を掲載)

全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実例が多く聴きごたえがあったが、理解度や納得度については、イベントの時間内だけでは消化しきれていない感覚がある</li> </ul>
基調講演	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 話題が広範囲に及んで、時間の都合で中途半端感があった。成果と共に課題を示して欲しかった。</li> <li>• 講演をもっとゆっくり聞きたかった。</li> </ul>
被災者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 包括的テーマで主要なキーパーソンが参加していたが、コロナ禍の影響もあり、参加者も交えた対話の場とはならなかった。</li> <li>• 先を見据えた議論ができたが、傍聴者に向けた発信としては内容のインパクトは弱かったかもしれない</li> </ul>
産業復興支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 産学官の分野の違う方々の取り組みを直接伺えて交流ができた</li> </ul>
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自組織の活動の振り返りをする良い機会になった</li> <li>• 他地区の取組をちゃんと聞く機会としてとてもよかった</li> <li>• 自分たちが行ってきたことが他地区と比べて方向性が間違っていないことを再確認出来て良かった</li> <li>• これからの参考になった</li> <li>• スライドをもとにしたフリートークにすればもっと盛り上がったと思う</li> </ul>

### ● 3. 実践の場の開催結果 — (3) 満足度 [傍聴者]

イベント全体に対する傍聴者の満足度は「とても満足」が37.5%、「満足」が58.3%でした。分科会は分野によって違いがありますが、9割以上の方に満足いただくことができました。

傍聴者（回答数：48人）



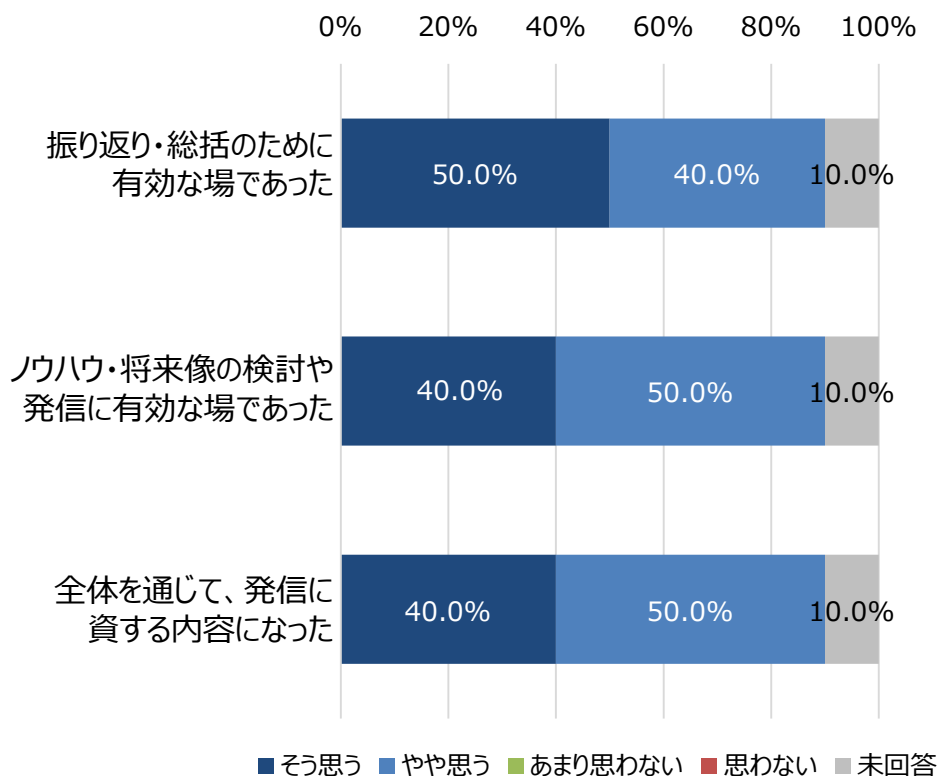
【満足度の理由】（要約を掲載）

基調講演	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっとゆっくり聞きたかった</li> <li>総括としては良かったが、被災者、被災地の立場からの話の方がより良かった。課題を特に知りたい。</li> <li>地域連携の意義についてあまり分からなかった</li> </ul>
被災者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の業務に活かせる内容を聞くことができた</li> <li>地域によって支援の仕方、団体のつながりなど違いがあり参考になった</li> <li>震災よりも台風19号の話題の方が多く印象に残った</li> <li>具体的にどのようなことが行われたかが丁寧に説明され理解出来たため</li> <li>どのように「連携」したかが見えなかった</li> </ul>
産業復興支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な話であった</li> <li>私たちが経験した震災からの取り組みや想いをあらためて再確認できたこと、この経験とノウハウを未来へ向けて国内外に発信していく使命を感じた</li> <li>話がとてもまとまっており、役立つ知見が多数示された</li> <li>発言の機会が少なかったのが残念</li> </ul>
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の地区の活動の「キモ」が簡潔にまとめられていて分かりやすかった</li> <li>様々な団体、立場、コミュニティや個人が集まり、多角的な視点で「連携」についての議論がなされ、非常に実りのある内容だった</li> <li>各々が対話をする時間が少なく感じた</li> </ul>

### ● 3. 実践の場の開催結果 — (4) 目標達成度 [参加者]

目標3点の達成については参加者のうち回答者全員が「そう思う」「やや思う」との答えでしたが、時間配分に関する改善点が複数挙がりました。

参加者 (回答数 : 10人)



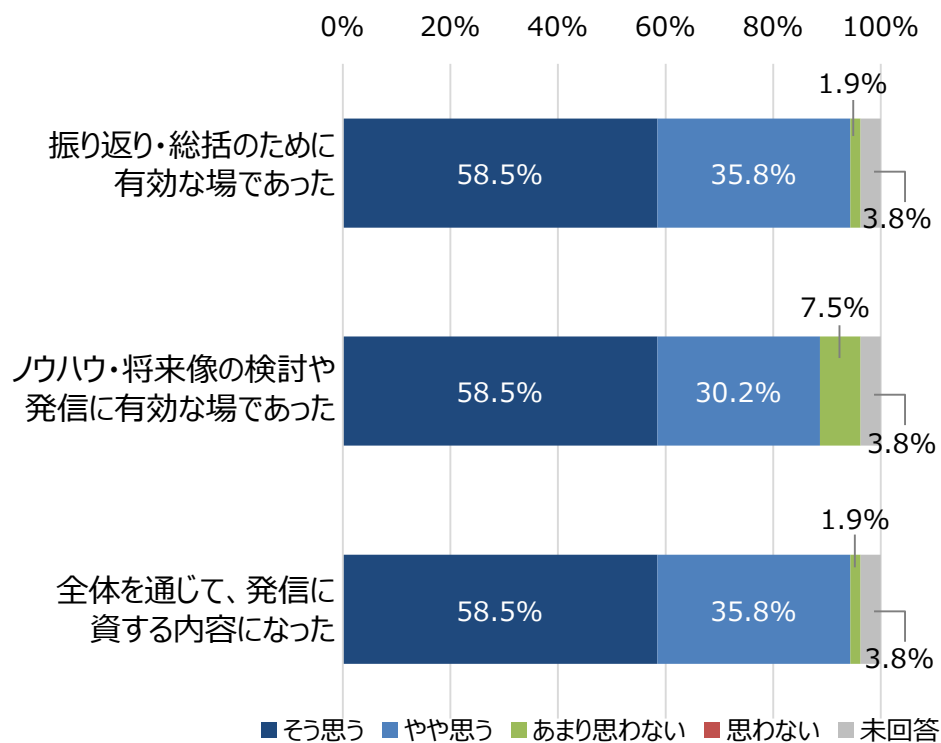
#### 【よかった点・改善点】 (要約を掲載)

よかった点	被災者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災からの復興の中に「次の災害への備え」を提示し、支援団体の平時からの連携の必要性を発信できたことがよかった</li> </ul>
	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間配分が良く話がしやすかった</li> <li>佐藤先生が話を整理しながら進めてくれるので、より伝わりやすくなった</li> </ul>
改善点	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインに特化し、参加者同士の交流を生み出す機会はまだもう少しICTを研究すればできる</li> </ul>
	基調講演	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民レベルで実感できる産官学連携の話をしてもらえるとよかった</li> </ul>
	産業復興支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間配分がもう少し上手く出来ればよかった</li> </ul>
	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区の発表時間がもう少し欲しかった</li> </ul>

### ● 3. 実践の場の開催結果 — (4) 目標達成度 [傍聴者]

目標3点の達成については半数以上が「そう思う」と回答した一方で、「あまり思わない」との回答もあり、傍聴者との双方向のコミュニケーションが期待されていたことが分かりました。

傍聴者（回答数：53人）



#### 【よかった点・改善点】（要約を掲載）

よかった点	全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルとオンラインの同時開催がよかった</li> <li>分科会では選択してより関心度の高い分野について話を深く聞いた点と、最後の総括で他分野の話も聞いた点が良かった</li> <li>震災復興10年目を総括するには意味のあるイベントと感じた</li> <li>東京在住者にとっては、震災での経験が今にどうつながり、現地の方々が、今もなお、日々どう活動しているかを知る、貴重な機会だった</li> </ul>
	被災者	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一人者の意見が聞けたことがよかった</li> </ul>
	産業復興	<ul style="list-style-type: none"> <li>パネリスト、コーディネーターの選定がよかった</li> </ul>
	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常にわかり易くスムーズな進行だったので、議論内容を把握できた</li> </ul>
改善点	被災者	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン参加者に資料の配布がなかった点</li> </ul>
	産業復興	<ul style="list-style-type: none"> <li>傍聴者にも発言する機会がもっとあると良い</li> </ul>
	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接質問もすることができなかったことは心残り</li> </ul>



### ● 3. 実践の場の開催結果 — (5) 考えたこと・学んだこと

参加者は他者との議論を通じて共通項や自身の活動の軸を再確認し、傍聴者は参加者のノウハウから学びを得たことが分かります。

#### 【イベントを通じて考えたこと・学んだこと】（要約を掲載）

参加した分科会	参加者	傍聴者
被災者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害対応という広範な対応に多くのセクターが、当事者性をもって対応することは難しいと改めて感じた</li> <li>当然ながら震災からの復興とは、震災以前に戻るのではなく、被災経験を踏まえたより良い社会の実現にある</li> <li>今後5年間で完了するものと、それ以降も地道に続けていくものと分かれるであろうが、何が必要で何が役を終えているかをきちんと見極めて、まず5年の範囲で重点課題に対応していただきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他団体とも平時よりつながりを深めたい</li> <li>東日本大震災の経験を昨年の台風災害時に十分に活かせなかったことは反省するべきと感じた</li> <li>今回の教訓を後生に生かすための仕組み作り</li> <li>誰のために、何のために「連携」が大事なのかを見直したい</li> </ul>
産業復興支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>異業種の活躍を直接伺う機会がなかったため、外部の方々の取組を伺い、震災後は優秀な企業や団体や個人との連携が復興に向けて、いかに力になったかを再認識した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>起業のプロセス、改良などの苦心談を学んだ</li> <li>かわりには信用となる、ということ</li> <li>連携には翻訳者が必要</li> <li>官民の連携の結果を(経済的に・数値的に)どのように評価するのか気になった</li> <li>先ずは小さな成功事例から始まる</li> <li>「自分事にする」というキーワードが印象に残った</li> <li>震災で失ったものは大きかったが、震災があったから知り合えた人たちが一番の財産になっている</li> </ul>
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながら行う情報の共有が大事</li> <li>他地区のまちづくりに関するスタンス、考え方の違いを明らかにしつつも共通する部分(主体性、プロセス)を確かめることができた</li> <li>行政とのかかわりが多種多様で参考になった</li> <li>各地区それぞれの問題点・活動内容の違いが改めてわかった。それでも、目指している所は同じなんだと感じた。</li> <li>他地区を参考にするときは、取組や背景、動く人の思いを知って初めて参考になると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>復興のフェーズから、防災・まち・コミュニティの維持というフェーズに変化している</li> <li>明確な地域の課題を発見し、解決に取り組むためのプロセスを設計(ノウハウ)し、それぞれの立場で一つひとつ地道に解決してこられたのだと思った</li> <li>災害からの復興のような大きな目標の早期達成のためには、連携が大事であるということを改めて強く認識した。さらに、うまく連携していくためには、「丁寧なコミュニケーション」が重要であるということが一番に学んだ。</li> <li>復興という面だけに留まらず、人同士の連携の持続、あるいは発展が不可欠になっていること</li> </ul>

## ● 4. 次年度の協議会・意見交換会について

次年度は協議会および意見交換会を継続し、これまでに蓄積したノウハウを被災地内外に普及展開する方向性で検討を進めております。

### 次年度の事業概要（『令和3年度予算概算決定概要』（令和2年12月 復興庁）から引用）

#### ■ 「新しい東北」普及展開等推進事業

「新しい東北」の創造に向けたこれまでの取組を通じて蓄積したノウハウについて 優良事例の表彰やワークショップ等を通じて被災地内外に普及展開するとともに、企業間のマッチングの場の提供を通じた事業連携や専門家派遣等の支援を復興状況等に応じて重点的に実施。

### 次年度の協議会の方向性

- ・ 「新しい東北」官民連携推進協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組は継続する
- ・ 被災地内外に向けたノウハウの普及展開に一層注力する  
（今年度はノウハウの総括に取り組んだため、この内容をさらに深掘り、広く発信していきたい）
- ・ 意見交換会の開催回数や実践の場の形式についても上記目的に照らし変更要否を検討する
- ・ 事業連携や専門家派遣等の重点施策も継続し、引き続き被災地内の復興支援にも取り組む

## ● 5. 意見交換

実践の場の開催結果と次年度の方角性を踏まえて、下記3点についてご意見ください。

1. 今年度の実践の場の良かった点や改善点についてご意見ください

2. 今年度の実践の場のアウトプット（特にノウハウ）を、次年度以降どのように活用できるか、アイデアをお聞かせください

※各団体を主語にする場合（①②）と、協議会を主語とする場合（③④）それぞれ

※アイデアの例を記載		どこで活用する？（活用先）	
		内で活用していく	外に伝えていく
誰が？ （主語）	各団体が	<b>①</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の連携について、目的意識が揃っているか、コミュニケーションが適切か見直して改善に取り組む</li> <li>新たな連携先を探す際に、良い連携にするためのノウハウをもとに考える</li> </ul>	<b>②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援先の企業・団体に対してノウハウを伝授する</li> <li>学生に対して事例とノウハウを伝え、身近に感じてもらい、復興／地域活動に対する参加意欲を高める</li> </ul>
	協議会が	<b>③</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノウハウを文章化し、メルマガ等のコラムとして定期的に会員へ配信する</li> <li>ノウハウのレクチャーと連携制度の活用方法解説を行うセミナーを開催する</li> </ul>	<b>④</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定のノウハウをもとに、関連するテーマや地域を対象として来年度に実践の場を開催する （ノウハウの実践の場をつくる）</li> </ul>

3. 上記③④を実現するために、次年度における意見交換会・実践の場のイメージについてご意見ください